開萬事虛誕記

へ遠13
2018
1-3

門へ 13
特 2018
巻 1

虚飛車として虚の形をなす。素より虚ふして正体なき物なれば形なき空空。仍て虚中に虚なるものらんふ托して。假ふ虚の容貌圖をるの例の戯作者の虚なり。されど虚中に實。実中の虚。虚と実あるとなり。況虚の虚なる飛情。世人迷ざる度なれば。是乃捷徑の教訓なれ也。

人間萬事虚誕計自序

道家の寓言。兵家の謀計。神変不思義。方便妄語。遊女よりて人を籠絡。賈人ふ無掛直の嘘あり。或ハ千こ一大萬ハ。或ハヨタロウ売鉄炮。うそでまるめて熊野の烏こ羽ものあり。親の頂ふ松こ本。

の字文撰言文。今日の天公も[illegible]大月小見
そ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]。[illegible]て冥府の閻羅王も。まぼろしに古紙
ぬけ[illegible]と。蹟[illegible]ら元る正月初。其正月の歳市みなぎき
して。人間萬事と外題を出す。去年は暮[illegible]九一年。
看官宜敷一[illegible]。[illegible]の作者の虚誕計。[illegible]と今
年は嘉き催促。歳客への[illegible]も紺屋乃明後日の
場[illegible]。是迚なく[illegible]紙の[illegible]て。虚の様子の即
筆にまづ初編乃稿を脱す。彼何[illegible]の詞を想ふ
に。虚を寔の骨。実を虚乃皮といふ[illegible]も。虚か
なる呼實多[illegible]。

文化十年癸酉馨春閑市にせんと同九年
壬申乃五月江戸本町乃小築 欲心深處ふ
筆を擱す

仙方延壽丹藥店

式亭三馬戯題

藍庭晋米言

喜怒哀樂虚誕之略圖

高人のうそ

買人のうそ

金もちのうそ

びんぼうにんの虚

あいさつのうそ

物ごしらえのうそ

せんざい売のうそ

さるがくのうそ

二月三日
金五十両

人間萬事虚誕計初稿標目

○愛相乃好き虚　○空辭儀乃虚
○風雅を好む虚　○昔自慢乃虚
○老婆乃虚　○女を嫌ふ壮夫の虚

通計六齣標目尾

傾城ふぜいもまことも有傾城の涙はまことの客乃為く　無名少人

まことハ天ふ[illegible]の物ゆゑ　三ぐ法師

極小書　列を千両ハ[illegible]　鳥亭馬

山家鳥　[illegible]

江戸のみやげ　箱入　代四十八匁　式亭三馬　精製

あいさつ

風雅人乃うせ

○雅人の虚

[illegible]山谷丹草あり[illegible]けるとて。君ゲ[illegible]

[illegible]

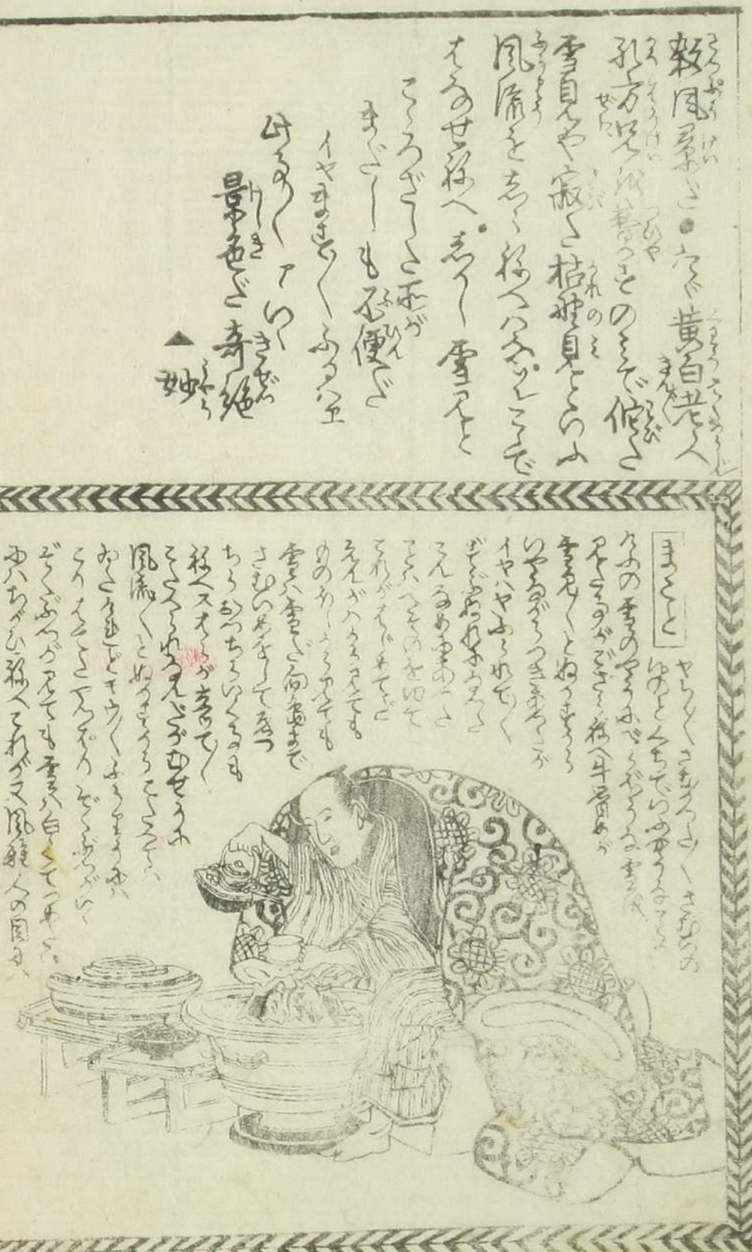
[illegible]

雪景色を時ふ如くこゝでも神ゝ
待乳山の眺望寄絶〳〵金龍山上一面の雪ゝ金波樓と
二藤が樓でありやと紙屋とる声風ふきこゆ●みんなアルくるる
紙屋寄ゝこんそる大傳の如ゝ
で手ゝ紙ゝこゝを出ゝ▲ヲシトカ〳〵出のある地ゝの●踊る平氣ひさ〳〵
ゝ〳〵ゝ▲ホイ豆下のやうふ先ゝくゝ〳〵ちやアあやまるゝ。いゝ〳〵ゝ〳〵
地ゝ〳〵ゝ巻長巻巻元錦以前の吉物が山ゝ。▲あゝゝゝ〳〵●賢董子
向ゝ〳〵ゝ〳〵るのハたゝ〳〵ふ婦人〳〵ゝ●▲さん候此雪中ふ獨歩のさゝのの
伽氣のある婦人〳〵。さゝハ越の国ゝゝゝ〳〵ふ雪女〳〵〳〵●漢多
深の淵衣を合羽の名代ふ引〳〵ゝゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵

行くら。そくさもの。寒風そぞろ。チト酔醒でぞくろいてきさ。●ヤ
知けりく山路雪深そくさものいるどくハ。チト不風流何さものしてくら
あるのの。酒力でもうくもろふ風雅でかくぐるあてるゆうチ。ア一斤の銀
世界▲南蛮紙あめるやうぐの●奇絵くく。声ハ外業ろう伝まろ
香ハ梅枝ろう遥至れ。寒外の征人凍甲冑宰ち。山中の隠士
寒衾を擁く。王孫緣席ふ金尊紙倒し。美女紅爐ふ獸炭を
添ゆッ▲でくぶむぐうくいと成いひ知しくこの●小説本の切ねきす。皇下
るどハさもいと言てくれちやァヤぐ俗物ぐ▲何さ長い言くばうくさ。
たとひさぐえ死ねバとて俗物といハれてハ男がたく移く金ハ風
雅ふとろて怪しぐ●河豚ふとろて怪しぐちやァ移くくッ▲勿論さ
●ありがてく。て降る雪ろふ。いろふ世の中の俗物へこるふものがふう
まくくとわいろうん▲道がめくくゆいくびきまるとるい。雪ハさてく

あとのこるのものるどくめくうさて
るさ。ぶまッ紙をもくぐ構く
ろきくんどろ。空地く山のくく捨む
るどハあまろ俗ぐ。待る風流氣
のるのくくるのものいつきまくねへコウ
ア。ち先部の積婆まろたまん
まで。くくるいくくうくく移くもて
くれバ風雅人と金持ハのものと
ア。てて。まく。待玉屋のおあさ
ア。成贅ぐる宝稲丸ハ哥妓城
撫。てて。拾ぐるの。あのいも
潮来節ぐうれくくく。徒ぐ
うく度くくこの●俗ぐの俗ぐ。
雪成えるふるの世成ぐらう。
▲せるて江戸ぶくくいきてく
恨さ。寒成賛て物を著よ

まるちと



○昔自慢の虚

大きなものなど。て。ちんのるすよ。唯さること今のくらうそどもらぶか。
まづ本町二丁目あるこう紙屋が通るとあきさうなものあるこうで
脊中がえんえんこのコレサ又うそどもといあて。雑幸仕つてこのものが何が絵ふ
うそ紙はくのものを。ヲヲとけをきくぶつらく。其所の弟こらよ物ハ。鼻紙
るぶさ五丁目。胴中の通るうぎるあめぶ一里半もあるこらうその
内といふものハあるハのさ〜きぶまろてパテそのそどもく。あれでも。彩
ぶふうろてと。樣そぐが十四五町もあるこらう。十二通るめくと。通る枝
でさ。あるうまろがある。町そぐのせまい西ハ方紙をおめて上国のどく
はをし彩いふあるふして細うくあるて通るこう。それぶけ脊が
のびる。それぶこう せまい町内をあるる時ハ彩ふ門の麦で。ようく
ヲてとしふくがあるて。ナントがうせいぢやアれくう。ハテヲえるそどさ。
其の時代のくらいの人ふうまれてさぶ遠ふうう国の性なるもよろさ。

あるうが若い者ぶん旨ぶと。て。杖でもつのてあるうさ者ハ。てうど今
ふきの国のとひろそるふうるよ。イヤヲ又。ヲヲるでも大丈夫さ。今の飛脚
ハ山うしの繕行国ぶぐ。まづ山うしハ。ヲ侍の人でも。彩ふ
江戸をうて江の商売者金沢と。きふうて貴ふあ西ハ。ゆうて。箱根
七湯うう。熱海へ湯治して。ゆうといて。ヲて。ヲ方ハ江戸
入さ。彩のかとうそのやうどぶアきてるきい。飛脚ときてるう。若ハ又
男人ぶうう。東ハ江ハ日ぶう。ヲ侍へ曰ふて三日。さあきの金沢へ
来つてあるる日のハの者ぶん八内人まて。鼻俱ぶ。それふ今ぶきの
人八日ぶ帰うう。江の内も一日ぶけ。大阪江ふも一日ぶけ。ヤレくこび
きてこのるんのとらちのあるる行く。イヤハヤあきれも若行く。コレさてうさう
角カるぶときてうう又格別ふるるきさ。これうまて今ぶど元きの仲も出
きまるへ。まづ上の日を元国元の刃のくう十六文七文頂戴の大の

男・髪の長さが五尺七八寸・目のあきさが八百里・鼻の穴が[illegible]間・
五十三間・鼻の高さが町半・耳のつくりうんだおらうか・六町一里と
はとこわるざつと五六里ものがるねばり少鼻の根元をるれめへス・耳の穴の
内組が四間ばど・そのほかへ大きなる五蜂ばが住で人をうかやかし
こげが・鼻のまつりが百二十間ほど・口のつくりうへ仰向てうたとも雨に
うたれて実無の数れをれんざ・うたれの大きさあつたる
めめが三里の高さといふくらいでは推量しるさい・よくくたれさ
ばでるるれば数ばいくつあるく・そこで・あるいは時天ふ極あさ
めさ・甚だへ公の見やうでは少便ばとうちづくて・先のうえ書の
あくうへうくきうみられさくうよ・ここで先のうえ書が・此あくは
少便云用とれを半くさ・そのれくとのへ今いつへ蕃あるゾサ・やそうん
ばくくこのく・東のたゝ鶴が蛍野・西の大鳳が富屋郎の
蹴・半弦・角力場ハどでさとのふふ・甚だ武義蜂の事とのふ
四三横八百里ばどある栗一番ふ・大使ばるるるばるるるるふ
時の場負さ・ねるくふあるばテ・甚だ頂の見物とのふへ今ばたへ
この高ばつて十のうきくくていくかるくるくでへふへ・そこるのをまれ
でへ深りく逆るくるるばへとそも書ぬ・ここで宮ばの隠を
三年四年もたるせていのもばきふくうふへうんで・初日ばもおるくるくるり
うんで・少使の高あのへ二日ふ一遍ばど・豆もいるばきふ一年ばたたの
少使をひとばれ・その角ふへ力ばばで出るとのふくるば・サテ角力と
ばるさあば・今のやふ相撲ばくくくくくるくるくる

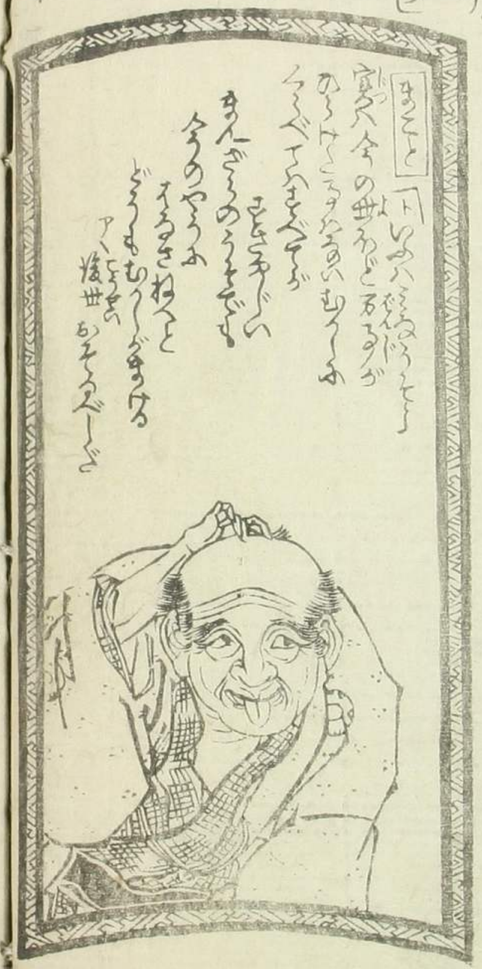
実と実との糸組・イヤ巻ゐいてゐるのと、そうでないのとがあるけれども
うゝ三里ばかりもあるとゝさぐらいてゐるよ。そこで
出方がよくゝ稀さく。ヤキ板さのゐるのとおそらく その地ひぐさが長房の
果ものできてゐて。唐人が見をみ〳〵ゝとらをとゞ。おもゝくのんで
わゝとゐがどこをどうゝくゝ。蹴まりをぐつとひつぱんで見ようイヤ家
士のゝようたゝくさゝあげて。曳くとゐてるげをゝくゝ。きゝるさい。家が
ぐうせいで。第五番山。第七川 五銭 六井川をそうゐるげをゝて。第九
六条 松原 屋敷へどでんどうゝ。ぶつ倒けゝぐ。大地くゐうゝて八万余旬。
めうゝくゝとめうゝんゝさうゝ。春ひいたゝ紙。紙ゝ角
力場まで果ゝ抱拵で。僅二時のあひだるうゝゝけ。イヤハヤまはゝしい
るゝさ。その後 蟹穴 赤ゝ穴ゝ 割ゝ赤ゐるのがるゝゝさ。ナニドうゝ
基角ゝをゝゝ見ゝさうゝめうゝ。芝居もその通ゝ。むゝゝ

義ゝ者ゝ小ゝ人ゝの後者ハ三ゝ天ゝ形ゝ。チット小男ゝとゝらゝのゝ。ゴマア紙
第ゝの二王ゝどゝハゝゐゝゝ。あゝ頃ゝのゝうゝひゝとゝを今ゝのゝ人ゝのゝ
せゝゝゝ。ゝ人ゝでゝゝ。ゝゐゝひゝらゝう万ゝゐゝそれゝゐ頃ゝて。白ゝ形ゝのゝて。
一ゝゝ。ゝゐゝ三合ゝ離ゝゝつゝゐゝて。五ゝ段ゝ舞ゝ屋ゝ人ゝ。出ゝ出ゝバ。ゝ五ゝ一ゝ形ゝ人ゝ。
今ゝ三ゝ寸ゝ文ゝのゝゐゝうゝゐ色ハゝてゝのゝひゝうゝでゝゐゝるゝ名ゝれゝど。むゝゝ〳〵ハゝ物ゝ
やゝとゝのゝゝ。ゝ十ゝ五ゝ文ゝ。ゝ形ゝてゝのゝくゝと。ゝ大ゝきゝゐゝ紙ゝ代ゝ人ゝ白ゝ形ゝの一ゝ形ゝもゝいれて
よゝゝゝと。今ゝの稼ゝうゝもゝやゝうゝて。ゝくゝよ。紙ゝも。紙ゝ。ハゝ三ゝ十ゝ二ゝ文ゝ。ゝ三ゝ
紙ゝでゝゐゝて。紙ゝをゝひゝのゝと。紙ゝさ。紙ゝの。ゝゐゝうゝ。ゝ三ゝ十ゝ二ゝ文ゝさゝ。ゝ三ゝ
一ゝ日ゝて。十ゝ五ゝ文ゝ。ゝ屋ゝ敷ゝ。名ゝ古ゝ屋ゝ山ゝ三ゝ軒ゝ。故ゝ役ゝのゝ。ゝ家ゝ
傑ゝ乃ゝ。ゝ主ゝ。ゝゐゝゝ。ゝ家ゝ。ゝ。ゝ。

しくさるものあつて。今の役者八ちのさへ女不女とのべば珍重
なり。紅仁くさもくべ玉屋でこんこんこ二十四孝。お俊伝後生
ねがひのけつこうく人で。ぬるでる呼ぶ相性悪のひれきでありこう。
何ごとう去まくぬるもの。されども粗言もうそらくくて尽くく
おくれ稽古。ぶんこくもくむ一役者八大役者さそのうくに
紅仁八こくようがさる。若衆八若ぶんがこうこう。粗
言ふ紅仁こくとの物がけちるこんぶ。おハ物がる。若衆八若ぶんがこうこう。粗
八百人形をゑこさ。ようでさ二ゑて。それでおくれるあこう。何。トまをゆ。ウく
洗くきのうんのんさるこう。一す八多くふむくくのおまていちのさ
こくふのこ。ゑトさまり。あれ八何さ。そ何よ。何さ。あれもぜんくこの大
きるのめさ。むくく八十八丈あこさ。あれでさきくそ八流りおあれ
ゑと言くくのちふらのさくくしくこのさ。なお征稽八百姓の山ざふが

小四郎ぶんまで八山の絵頂をゑそこのがるこさ。ゑんのるふ
あい。まの中こくこさふ稽古さ。それが今で八山のてこぺんが
ごこくこもゑえるゆうふるこさ。イやるのもたいさこうるちがこさ。
おくくこふこさるがあるテ。おれが血筆さこんこさるあ八看物
の文を七丈八寸成弟こくこ。ちこくこと拝るのも一生罪ればは
同おあ八このイざが。なくくがよくくこくこさ。ゑゑゑ三尺三寸を
弟るこう一反で丈物ごこまでこれるがの裁がこれるかこさ。
おてこんれば百古の山まもこんのんさるもくこがようてちいさく
るこくこもこれ稽へ。トまこくこ物ける文「三寸トるく「ヘ」猫のる紙で多
だくくふむくくも今もうつ稽く。紙もちくがこくこのこと紙あ八猫
にのつてあるこさめのが。猫ふ手ふて山が通ひこさ去ここるへ八今の
古物さがくくも去るまいテ。首つ丸く驚嘆の紙をつけて白毛の猫

おやしをめして猫追てらつかのが。おぢりれ陰毒でも出をさそ
枝をたのして追つらつけ。其猫おやしをあれが拾てあるる。毒薬ふ
又毒て骨董集の中くられさ毒るつりご。ばくてるねたしるるそそ
るへ。甚角が十年の贅の肉ふ弟町の猫通ひろう揚屋町とつふ
角へ。猫で通つとおぶんのるる紙おひやつと匂さ。ナニトどうとくへ
しいものどろう。
あめくちへはむ巳
めのごとろて
おとくきとるが。
さうしかくめさ。
きぐつ〳〵
めつふ流り
あくれてへ
ふるつ。モツト



古つるのめづらしいるる紙おくくへあるる隨筆を
うてやらう何今時のめがくくく

秘方 金勢丸 きんせいがん 壹包 百文 半包 五拾文

酒の酔をさまし酒をよく飲しむ
食をすすめて肥ふとらしむる
毒を消し後一切の病を除ふる
効あり もつて治ふ功験あり名
称の或ハ平生懸中して身を離さず

箱入 袋入 清涼はみがき 三十文 五十文

砂を用ひず薬味一式ふくめる
はけ匂ふ口ぶ中ハ日数
ふくもつくれるる

雪の花 金百疋
月のかぐや 金一分五朱
花のうてな 金二百疋

蘭奢袋

家傳 ちやくめ志薬 壹散 代五十文

ちやくめ志ちえ
くくらんまて
くくきちやくめ

小児 百日ぜきのくすり 代百文

少ぜきに一ぷくのくすりやく

武亭三馬家製

○姑婆の虚

「おくさまこんにちは。あなたのおかげで、やっとのことで、ふたりのあいだをとりもつことができました。ほんとうにうれしくてたまりません。ありがとうございます。」

「いいえ、わたくしのほうこそ、ずいぶんとあなたのおかげをこうむりました。ほんとうにうれしくてたまりません。ありがとうございます。」

「ほんとうにうれしくてたまりません。ありがとうございます。」

「ほんとうにうれしくてたまりません。ありがとうございます。」

「

[illegible]

[illegible]

[illegible]

「まづ〳〵く京七ぢの[illegible]
[illegible]
[illegible]

こと。唐土八百金丹。日本六千金丹の因ふ。ナニ。ヒ。四百余明ナリ。
ハテナ。ごくぶ。おぼ。がくろんこの。おくり八百と笑こと。まづ半分まと又こと
ゆふ。ものまつてくぶくこのハたいさうぐらう。知者とろ名ろくろう
のものわどこ名るやうさ。それぐらう女こつまもろハゆぐこがるわく。虎
狼よろ。おそろしーしやろハ女さ。おいくり女とこうるまとハ大きこうぐ義強
ぐこの義員ぐのとろこ。ろわが。こまの女。虎のろくこふよ。そこくりけて
きろりやろハ弁慶ぐこうろ。弁慶ぐ女ふあるの へこの緒きこ高こ
一反ス。ろんとこいろハまぐくくしいぐろ。ろろ祝くう。そのつせ弁慶ハいこ
つて義経ぐろ。そこで山方猪ろ。弁慶ぐあるこ肉ハきこつか
ろう。李下ふ冠をこぐさぐ瓜田ふれ。当紙いわぐ。女のそばくよろと
他ぶあぐふ動をつけるくう。おくり女のそばくよろぐ。向ろくうのころう
てもこくにあぐころせぐ。女とりんこくぐ。グットふくくつけてあるようこの因く

ひくも。真こうぐろこあくう門ろくう。果くあげ出して。ぐ。それふろん
ぐこ。機所のたれ。ふ。ハ真こうのるこを考てるぐく巨燈くあこ
ふひくの。ソシテ。ふいこる娘とこんるとたちまちこうにひて。ぐ。ぐこと
きいころ。どちらぐるくこう。呉ふあこうふあこうぐるぐ。こしあこぐこれ
ハちう。李下ふ冠をこぐさぐ。真こうのるこふ巨燈くあこぐこいふ言
るぐ。ぐこくぐ。浦こうふ。のこ。でもようんぐこのハここ。ぐ。ぐこれ
るこの。ぐこけ。弁慶ぐこ。ハこあること。こ楽ぐこるる。弁慶ぐ女ふあこう
へこの緒きこて。ダンダ一反ス。ナトきこんハちやう。ハテ。女ハ。ダンダン。
女ハ男ハこうまれぐこること。支離者ぐこ。こんぐ。ろ遠の。ハ。紅葉
でつこくぐこの。弁慶の。ぐや。男の。ハ。ぐこ。ハ。ぐこ。ハ。ぐこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

4年10月

文教堂玉人模

文政堂主人撰